



OTC薬を上手に使おう…合う薬・合わない薬⑥ 胃腸薬

「合わない薬」を避け「合う薬」を選んで、セルフメディケーションを上手におこなうための

ポイント ① 薬を服用(使用)する人の体質に合っているかどうか

② 薬を服用(使用)する人の症状(病気)に合っているかどうか

今回は胃腸薬をとりあげます。胃腸と一口に言いますが、胃と腸では働きも不調の状態も異なります。市販(OTC薬)の胃腸薬の多くは「胃」の薬です。胃腸薬は対象とする症状によって大きく三種類に分けられます。 ・胃の働きを助ける薬 ・胃の働き(胃酸の分泌)を抑える薬 ・胃痛を緩和する薬 これらの三種類をすべて含むものも多く販売されています。

胃腸薬の成分が体質に合わない①のケースもありますが、胃腸薬の場合は②の症状(病気)に合わないケースが多い様です。胃の不調症状と「合う薬」についてはNo.4-7などでもとりあげています。ここでは、胃腸薬の添付文書に記載されている注意事項を中心に見ていきます。

★透析療法を受けている人が服用してはいけない胃腸薬

胃酸を中和して胸焼けなどを緩和する成分に「アルミニウム」を含むものがあります。

透析療法を受けている人は腎臓がうまく働かないので、アルミニウムを体外に排泄できず、長くアルミニウムを含む薬を服用すると、アルミニウムが脳や骨にたまり、アルミニウム脳症やアルミニウム骨症を起こすことがあります。アルミニウムは一般的な胃薬の多くに含まれていますので、胃腸薬を選ぶときは薬剤師や登録販売者に相談してください。アルミニウムと書かれていなくてもアルミニウムを含むものがあります。

＜製品の例＞ 第一三共胃腸薬、スクラート胃腸薬、ザッツ21、パンシロンAZ、太田胃散など。
解熱鎮痛薬「バファリンA」にも同じ注意があります。

★授乳中の人服用してはいけない胃腸薬(授乳を避けて服用する場合は問題なし)

胃腸平滑筋のけいれんを抑えて胃痛・腹痛をやわらげ、胃酸の分泌を抑える成分として配合されている「ロートエキス」は母乳に移行するため、乳児の脈拍が多くなる場合があります。母乳から粉ミルクに切り替えられる場合の服用は問題がありません。ロートエキスを含む胃腸薬は非常に多いので、服用前に確認してください。

＜製品の例＞ 第一三共胃腸薬錠剤、ザッツ21、パンシロンAZ、新キャベジンコーワS、サクロン、太田胃散など多数。

★医師から血液異常を指摘されたことがある人が服用してはいけない胃腸薬

「胃のヒスタミンH2受容体に拮抗する薬」として「もたれ・胸やけ、むかつき、胃痛」に用いられる胃腸薬は、血液成分を作る脊髄にも作用するので、赤血球数が少ない(貧血)、血小板数が少ない(血が止まりにくい、血が出やすい)、白血球数が少ない等の指摘を受けたことがある人が服用すると、さらに血球等が減少することがあります。この種の薬は、効果は良いですがその他の副作用も多い薬です。そのため第一類医薬品に指定され、服用に当たっては薬剤師から説明を受け、服用可能かどうか確かめてから使用するよう決められています。服用方法や服用量も守らなければなりません。

＜製品の例＞ ガスター10、アシノンZ錠、アバロンZ、ベッセンH2など。

胃腸薬は手軽に使われる薬ですが、使用方法や適応症状が合っていないケースも見受けられます。重大な副作用につながる場合もありますので、専門家に相談されることをおすすめします。

